

2024年11月19日
旭川地区バスケットボール協会 U12部会
技術普及委員長 数村 勇樹
(文責 伊部 大樹)

2024年度 選手権大会 総評

GOOD (よかった, 続けてほしいことなど)

〈オフェンス〉

- ・ドライブからキックアウトして、アウトサイドからの思い切りの良いシュートを打つ場面が多く見られた。また、そのシュートをフェイクにして、出てくるディフェンスとのギャップを利用してドライブするなど、オフェンスバリエーションが増えた。
- ・アウトサイドからのシュート力が向上した。チームオフェンスの中でも、戦略的にアウトサイドから点数を取ろうとするプレーが増えた。
- ・シュートバリエーションが増えたことで、プレッシャーをかけられた状態でもシュートで終わることができる場面が多く見られた。

〈ディフェンス〉

- ・マンツーマンに対する意識の向上。指導者のみではなく、選手自身にも理解の高まりを感じた。旗を振るケースがかなり減った。現象としてマンツーマンになっていない場面もあったが、意図的・組織的ではない場合がほとんどであった。マンツーマンが崩れた際も、指導者から選手への声掛けをする様子が多く見られた。
- ・ボールマンに対する距離感がよくなった。(プレッシャーをかけよう、シュートを打たせないという意識が感じられた) ボールマンに対して間合いを詰めることができているため、選択肢を減らすことができている。
- ・ディフェンス時の正しい手の使い方。イリーガルな手の使い方が減り、足で守りながら、正しく手を出していくことで、ボールカットする場面やボールマンのドリブルを止め、ミスを誘う場面が多く見られた。

BAD (課題など)

〈ディフェンス〉。

- ・オールコートディフェンスの際、マッチアップの遅れから、ゾーンのような現象が単発的に発生している。(ボール出しのプレイヤーにマッチアップしているディフェンスが遅れることで、裏のスペースを守っているような状況がうまれている)

NEXT (今後に向けての改善点など)

〈オフェンス〉

- ・ディフェンスのプレッシャーに負けないドリブルキープ力, ミート技術, キャッチング

技術、トラベリング（突き出し、軸足が変わるなど）にならないための姿勢や技術の向上。

- ・「自分がやりたいプレー」ではなく、「ディフェンス状況やスペースの有無などに応じたプレー」を選択できるような視野の確保とより高い判断力、プレーバリエーションの向上。
- ・オフボールでの動きに意識を向ける。（合わせる、スペースに飛び込む、スペースを空ける、ディフェンスを引きつけるなど）そうすることで、ディフェンスもよりマンツーマンを意識していくことに繋がる。（ディフェンスのステイは、オフェンスのステイに原因がある場合も）

〈ディフェンス〉

- ・高さに頼らないリバウンド技術の向上。（ボックスアウト、タッチアンドゴー、リバウンドキャッチ技術のバリエーション、チップアウトなど）

最後に、熱い戦いを繰り広げた選手の皆様、温かな声援や送迎等様々な面でサポートしていただいている育成会の皆様、そして、大会運営や熱い指導で選手のためにご尽力いただいた理事・指導者の皆様、本当にお疲れ様でした。選手権大会は、冬の全道大会へと繋がる大会ということもあり、毎年、特別な雰囲気を感じられます。そんな中でも、勝利だけを目標とせず、選手1人1人がそれぞれの目標に向かい、全力で楽しそうにプレーする姿は、見ている方々の胸を熱くさせたのではないのでしょうか。

全道大会や道北大会などの上位大会に参加されるチームの皆様におかれましては、さらに高い目標に向けて準備を進めてほしいと思います。今大会で悔しい思いをしたチームの皆様におかれましても、ここがゴールではございません。これから先の未来には、たくさんの方が広がっています。それぞれの目標に向け、充実した日々を過ごしていただければと思います。

以上、今大会の総評とさせていただきます。